

ヴォリュームアキュライザーの導入(2)  
—TruPhase への適用(1)—

1. 始めに

インフラノイズ社から、ヴォリュームアキュライザーVRA-7が発売され、その仕様と評価計画は前報(1)で報告していますが、手始めに FIDELIX のパッシブアテネーターTruPhase に適用してみます。

2. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴方法

今回は、アナログ音源でVRA-7の効果を確認します。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→  
(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバ  
ランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケー  
ブル)→Langevin 6V6pp

TruPhase の仕様と機能については、[TruPhase の導入\(1\)](#) で報告していますが、抵抗切り替え式のヴォリュームです。この TruPhase のヴォリュームに添付の両面テープでVRA-7を貼りつけます。VRA-7を貼る前は、レゾナンスチップを貼っていますが、これを除いてVRA-7に張り替えます。従って、レゾナンスチップのレベルが基準になっています。

なお、パワーアンプの Langevin 6V6pp にもヴォリュームがありますが、ほぼ全開の近い条件になっています。ここに適用したいところですが、ピン状のものなので後ほど検討します。



音源は、聴きなれた下記を使用しました。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーヴェン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)  
ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲  
ゲオルグ・ショルティ指揮ウーンフィル

Angel (東芝 EMI) AA 9117・C

ゲオルグ・フードリッヒ・ヘンデル メサイア  
オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

SOMETHIN'COOL SCLP-1055

Misty for Direct Cutting

TSUYOSHI YAMAMOTO TRIO

### 3. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴結果

ZANDEN Model 120 の設定条件は、これまでの経験での条件を適用していません。

バッハのソナタとパルティータでは、ミルシュテインのヴァイオリンの美音はそのままだに、音に膨らみと張りが出てきます。

選帝侯のソナタでは、アンダのピアノの美音はそのままだに、ピアノのスケールが一回り大きくなったような印象です。

ワルキューレでは、弦楽合奏も金管も伸び伸びと鳴り、ソプラノやメゾソプラノの声の張り揚げ方が違ってきます。

メサイアでは、ハレルヤコーラスの分離が良くなり、迫力が出て、弦楽合奏の艶が出ますし、シュワルツコップの声の張りが伸びやかになります。

Misty ではピアノのアタック感が強くなり、ドラムの皮が乾いた感じになります。

全般的に、音圧が上がったように感じます。パワーアンプにもヴォリュームがあり、スピーカーの再生パフォーマンス向上には効果は限定的ではないかという懸念もありましたが、結果はそんな心配を払拭してくれました。特に顕著な効果を感じるのは、大編成もので音の構成が複雑な曲です。単に受動機器のパッシブアテネーターへの適用ですが、パワーアンプの駆動特性が変わったような印象です。

### 4. まとめ

TruPhase のヴォリュームへの適用により、アナログ再生における VRA-7 の効果を認めました。

以上